

やないかと私は考えるんですが、簡単をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうに上がっている報告の中では、平成31年度の協議会の委員にはこの当該業者は入っていないということでございます。ただし、専門的な知識を有する有識者がオブザーバーとして協議会へ参加いただくことは計画の推進には必要であるというふうを考えておまして、私自身問題ないのかなというふうに考えております。詳細については、また担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 担当部長は結構です。そういったことですから、報告が上がっているんでそういう判断なんでしょうけども、そこら辺は、説明される段階で、そういう希望があるなら希望があると明確に言われたほうが、委員長報告でもさせていただきましたように、公正明確な行政をお願いしますという観点からすると、いささか問題がありますので、今後、こういった対処がないよう、やるならやると明確に答えた方がかえってスムーズにものが運ぶんじゃないかと考えております。

空き家対策については、これは簡単な話じゃありませんので、今年度中策定するという方向で動いていただいていますので、できれば、この今の経済状況からするとまだまだ空き家が増加しないとも限らないということもありますので、ひとつ早めの対処をお願いしたいと思います。

人工透析の患者については、それぞれ実態調査を各患者さんになされているという報告でしたので、それはそれとして、大変評価できるものであるし、3名の方でも利用されているということであれば、これはこれとして、いいんじゃないかと。もしふえてくれば、それなりの対応方お願いをしたいと考えております。

ジェットfoilは、なかなか難しい問題です。できれば、いつも言いますように、ほかの自治体と協力をして、一刻でも早く対応できるように努力を希望いたしておきます。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） 3番、今、委員会とのやり取りが疑義があるみたいですが、担当部長の答弁は必要ありませんか。

○議員（3番 長郷 泰二君） 担当部長の答弁は、今回は、今の答弁で、市長に報告が行っているということでしたので、市長はそれを踏まえられて判断されたという判断をいたしましたので、詳細についての答弁は私は求めません。終わります。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。創政、18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 会派、創政の上野洋次郎でございます。関連質問で、水産振興について質問をいたします。

対馬の基幹産業であります水産業におきましては、本年度は漁獲量、そして漁獲高とも大きく減少し、近年まれにない厳しい状況であります。特に、イカ漁につきましては、8月以降9割減ということを聞いております。また、定置漁法を含め、その他の漁種においても、昨年度同比5割から6割減という話を聞いております。これはまさに対馬の水産業の危機であります。このような危機的な状況にある沿岸漁業に対しまして、市の水産振興策としてまずできること、漁業用燃油に対しまして補助する漁業用燃油対策事業を早期に実施し、各種の漁業経営を支えるべきだと私は考えます。

現在の水産業の現状認識を含めて、市長の答弁をお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 創政、上野議員の御質問にお答えいたします。

水産業において、近年は漁獲量の減少傾向が継続しておりまして、特に、今年度はイカの不漁等による漁獲減少が著しく、漁業者の皆様には大変厳しい状況であるというふうに聞いております。燃油高騰対策につきましては、燃油高騰が顕著でありました平成25年度から27年度まで対馬市における支援策として、漁業経営、セーフティーネット構築事業加入を補助要件といたしまして、燃油に対する直接補助を実施しては、平成26年度から省エネ機器等の導入事業、平成28年度から競争力強化型機器等の導入事業等に移行いたしまして、燃油高騰に左右されにくい、強い漁業への転換を推進しているところでございます。御指摘のとおり、漁獲量が減少し、合わせて、燃油の高騰も継続する中で、水産業が非常に厳しい状況であることは理解しておりますが、国が推進しております持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため、生産性の向上や省力、省コスト化に資する漁業用機器等の導入を対馬市独自の支援策として継続して実施する必要性があるものと考えております。今年度におきましても、70隻の機器導入等を実施しては、平成26年度からの導入累計は363隻となっております。直近の港勢調査における動力船漁船数に対する導入率は、約9%であり、まだ十分な成果が得られていないものと思われ、機器導入に対する要望も依然として強いものがありますので、今後も継続して機器導入事業を推進しながら、漁家の経営安定に取り組みたいと考えております。しかしながら、漁業経営、セーフティーネットの発動基準が高く、なかなか有効な手段として活用できない現状もありますので、基準の緩和につきましても、国や県に要望をしまいたいと思っております。

水産業にとりまして、非常に厳しい状況の中で、各漁協におきましても、漁業形態が異なり、地元要望も多岐にわたることから、なかなか意見集約ができない状況であることは思っておりますけれども、限られた財源の中で地元の現状や要望、また漁協組合長会の意見等を聞きながら、有効かつ効果的な支援策について、引き続き検討をしまいたいというふう考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 今の市長の答弁によりますと、従来どおりの機器導入資金のほうを優先して、燃油補助はできないと、そういう考えでよろしいですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 決してそういう意味で答弁させていただいたわけじゃなくて、最後のほうに申しましたように、漁協の組合長会のほうからも実際に要望も受けております。そしてまたいろいろと話をさせていただく機会があるときにも、まず組合長会のほうでその意見を集約をしてくださいという話をいつもしております。このことにつきましては、やはりこの答弁の中でも申しましたように、各漁協ごとに漁業種類の関係で、燃油の直接補助がいい漁協や、やっぱり機器の購入のほうがいいというような漁協もあるようでありますので、まず、個々が組合長会でその方向性をきちっとまとめていただくことが大事ではないかなと。そしてまたその上で、組合長のほうにもお願いをしておりますけども、市だけの助成ではなくて、組合としてもできる限りのことをお互いにやっていきたいと思いますというようなことを話をさせていただいているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 少し市長とのやっぱりこの水産業の今の現状の認識が少し違うんじゃないかなと、今の話を伺って、本当に今の状態は近年全くないというか、私も漁業者の方に伺いました。特にイカ漁については、このような不漁は50年間ないよと。また定置関係のこれは私の管内の定置関係なんですけども、このような漁は生まれて初めてだと、そういう本当に厳しい状況なんですよ。そういう中で、今市長の話では、危機導入の10%と燃油補助のほうは一緒にやれんと、そういう感じですよ、話を聞けば。組合長会の中で、例えば、今年度は機器導入分はいいよと、それを油の補助に出してもらえば、それはやりますという話なんですよ。それは、わかります。ただ、本当に市長が本当の水産業の厳しい状況をわかっているのかと、少し残念であります。

もう少し話をさせていただきますと、私の地元、小さい地元ですけども、ことし、2艘、2人の方が漁業やめられました。そして、私のところきませんけども、全島ですけども、何人から電話がありました。もう、上野議員、今の状況ではやっていかれんから、ここ1年、2年、出稼ぎに行ってきますと。そういう状況なんですよ。そこのところをもう少し市長にわかってもらいたい、私は。確かに午前中ですか、観光関係については皆さんいろんな意見がありました。そして、市長もやっていくぞと。私もいろんな会議で市長とご一緒していただきまして、市長が大変頑張っている姿は私も見てきまして、そこはなかなかやるなと思って見ておりましたけども、この水

産関係、少し、本当に親身になってもらえんですか。本当にこれは50年、100年の本当の危機ですよ。私のところだけでも二、三軒、多分これはやっぱり全島では10艘、20艘、廃業していると思いますよ。何とか市長、もう少しもうちょっと漁師も頑張れよと、そういう気持ちはありませんか。

私の考えとしては、機器導入分は続けてもらいたいんです。それプラス燃油補助に対しても、このことは先ほど会長から、うちの会長が話しましたけども、壱岐市に行ってきました。そういう中で、壱岐市さんのほうでは、そういう事情を踏まえて、市としての考えはやっぱり80円を超したらやると、そういう認識でしたよね。今市長も知っておるので、85円を多分島内超えておると思います。いつもこの燃油対策について私は言うんですけども、イカ釣り漁業で言うたら60円を超したらやっっていかれんですよ。そういう中で今85円、消費税含みまして90円超えます。ずっと私はこれやれということじゃないんですよ。緊急的にやってもらいたい。ちょっと時間はありませんけども、もう一度お願いしたいんですが、どうですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 漁業が大変厳しい状況、そしてまたその中でもイカ釣りが平成27年度と比較いたしましては、10月末現在で約27%ということで、大変厳しい状況であるということは、私たちも考えております。ただ、市のほうもこれを両方をやっていただきたいということで要望されても、ここはちょっと厳しいということで、まず、組合長会のほうに、どちらかに絞ってくださいということで、組合長会のほうにはお話をさせていただいておりますので、今後、しないということじゃなくて、組合長会のほうと十分な協議をさせていただきますということで御理解をいただければというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 時間がないので、今後の問題としては、先ほど市長が言われるように、このセーフティーネットの基準額の見直し、そして、機器導入にしても、県の補助は全くゼロなんです。数年前はありました。これは県がゼロになりましたので、このことも含めて県の当局に再度復活いただいて、その分を油代に持っていくと、そういうことも考えられますので、よろしく願いいたします。

最後になりましたけども、市長、対馬の水産業を守るという強い気持ちで今後とも水産行政をやっていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） 会派、創政の黒田昭雄でございます。先ほどから、会長と上野議員からありましたように、政務調査で壱岐のほうに行っていましたので、それに対する質問